

## 東アジアに躍動する

### 国際港湾・交流都市 舞鶴



舞鶴湾

#### 舞鶴市の概要

舞鶴市は京都府の北東部、日本海が最も深く湾入したところに所在し、古くから美しい海とともに歩み発展してきました。平地面積は非常に少なく、大部分が山々と丘陵からなっており、青葉山、三国岳、弥仙山などの山々に囲まれ、市の西部を由良川が流れています。若狭湾に湾口を開いた舞鶴港は、波静かな天然の良港を形成しており、また、約98 kmに及ぶ海岸線一帯は、入江と岬が美しく交錯したリアス式海岸で若狭湾国定公園に指定されています。

京都舞鶴港は、関西経済圏における日本海側唯一の重要港湾であるとともに、平成22年には国直轄事業を重点的に実施する重点港湾に、さらに平成23年には中国や韓国、ロシアなど対岸諸国との貿易や観光の拠点となる「日本海側拠点港(全国で19港)」に選ばれました。

平成23年7月策定の新たな総合計画では、この東アジア地域の成長・発展のイメージに舞鶴の将来像を重ね合わせ “東アジアに躍動する国際港湾・交流都市 舞鶴” を都市像と定めるとともに、まち



赤れんが倉庫群



赤れんがアートフェスティバル

づくりの基本目標を“子どもからお年寄りまで安心して暮らせるまち・舞鶴”と定め 子どもからお年寄りまで、全ての市民が住むことに安心と満足を感じることができるまちの実現を目指しています。

## 国保の概況

本市の近年の人口推移をみると、5年間で約3,000人余り減少し、平成22年で88,794人となっています。一方で高齢化率は26.2%と、国や府の平均と比較して3ポイント程度高い値で年々上昇しています。

国保加入状況は、平成22年度末で世帯数が13,848世帯、被保険者数は23,844人で、加入率は、世帯で34.6%、被保険者数で26.9%となっており、いずれもほぼ横ばいとなっています。

### <国保保険者の動向>

(各年度末数値 単位：世帯、人、%)

年度	市の人口	総世帯数	国保加入世帯数	加入率	被保険者数	加入率
20年度	90,287	39,972	13,882	34.7	24,217	26.8
21年度	89,541	40,044	13,834	34.5	23,902	26.7
22年度	88,794	40,062	13,848	34.6	23,844	26.9

次に医療費の状況をみると、入院は、費用額を除き受診率、1件及び1人当たり費用額において増加、入院外は1件当たりの費用額が増加しています。歯科に関しては、全て増加状態です。

一人当たりの医療費は、一般・退職を含めた全体分で、21年度306,701円に対して22年度308,134円と前年に比べ1,433円増となっています。高齢化率等を勘案すると、今後ますます高齢者の医療費は増大するものと思われます。

### <一人当たり医療費>

(単位 円)

年度	一般	退職	全体
20年度	288,862	340,905	294,213
21年度	306,373	310,383	306,701
22年度	306,645	325,151	308,134

## 保険料収納率の状況

一人当たりの保険料調定額は、一般・退職を含めた全体分で、21年度76,282円に対して22年度76,835円と前年に比べ553円増となっています。

保険料の収納率は、22年度については現年度全体分で92.73%、前年度に対して0.80%ポイントのアップとなっています。

＜一人当たり保険料＞（現年医療分 単位：円）

年度	全体	収納率
20年度	75,567	92.26
21年度	76,282	91.93
22年度	76,835	92.73

## 保健事業の取り組み

一人ひとりが健康で生き生きとした生活を送るためには、壮年期からの健康管理が大切になります。

平成20年度に特定健診の実施が義務化されて以降、40歳から64歳は集団健診と65歳から74歳は個別健診に分け実施しており、受診率は37%程度と横ばいの状況となっています。当初から受診費用を無料とし、対象者全員に受診券等を郵送していますが、受診率向上のため、平成22年度から受診率の低い40～64歳の集団健診対象者の申し込みがない方に個別に受診勧奨を行い、さらに24年度からは個別健診についても前年度の未受診者を対象に受診勧奨を行うことなどにより、受診率向上を図ることとしています。

＜平成22年度特定健康診査＞

（単位：人、％）

年齢区分	実施方法	実施期間	受診対象者数	受診者数	受診率
40～64歳	集団健診（保健センター等）	9月～11月	8,073	2,141	26.5
65～74歳	個別健診（市内34医療機関）	6月～7月	9,040	4,178	46.2
合計			17,113	6,319	36.9

特定保健指導については、保健センターにおいて実施していますが、実施率が低迷しているため、初回面接の日を対象者の希望により調整するなど柔軟に対応し、さらに23年度からは、訪問による個別指導を行うなど実施率の向上を図っています。

＜平成22年度特定保健指導＞

(単位：人、%)

区 分	対象者	実施者	実施率
動機づけ支援	585	61	10.4
積極的支援	254	37	14.6
合 計	839	98	11.7

その他の保健事業として、人間ドック・脳ドックの補助（自己負担3割）を行っており、被保険者の関心が高く毎年定員を増やしてきましたが、23年度からは希望者全員に受診していただくこととしています。

＜平成22年度人間ドック＞

区 分	人間ドック	脳ドック	総合（人間+脳）ドック	計
受診者数（人）	129	93	221	443



舞鶴かにPR ソング「舞鶴かにカニ♪」に合わせてみんなでダンス♪

## 医療費適正化

医療費適正化のためジェネリック（後発医薬品）の利用促進に力を入れており、平成24年3月の被保険者証の一斉更新時に希望カードを同封するとともに、24年度は医師会、薬剤師会と協議しながら差額通知の実施を予定しています。

今後、ジェネリック医薬品の普及啓発に努めるとともに、生活習慣病のリスクの高い方への保健指導により、重症化予防に努めるなど医療費適正化対策の強化に努めてまいりたいと考えています。